

東京旭川会 会報



ななかまど

第11号 1989年2月15日

発行 東京旭川会
東京都新宿区西新宿7-4-3 升本ビル
東京美装興業株式会社内
TEL. (03)363-2721
編集 東京旭川会会報編集委員会



座談会風景

座談会

開基 百年

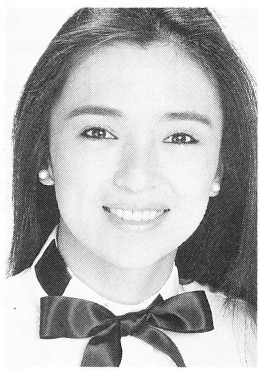
ふなやまの申す!

例年、十月に予定しておりました東京旭川会の総会懇親会が天皇のご不例その他の理由で中止となりました。そこで会報『な、かまど』で幹事さんをお願いして、座談会を開催することにいたしました。「どき」昭和63年11月17日「どころ」東京旭川会事務局



人と 舞台上に大バラを 野村玲子さん

旭川は様々な人材を世に送り出しているが、珍しい大型の舞台女優が生まれた。劇団四季の野村玲子(のむら・りょうこ)である。昭和三十



六年八月、旭川市生まれ、五十五年旭川商業高校を出て、富士銀行旭川支店に勤めた。

ここで一年間、平凡なOL生活をすごした。五十六年四月に劇団四季付属研究所に入所。一年間の勉強のち、五十七年四月、ミュージカル「エビータ」で初舞台、五十九年一月に四季の年間最優秀新人賞「黎明賞」を贈られた。「キャッツ」のシラバブ役などで演技力を高く評価されたわけだ。以来、日生劇場、近鉄劇場、青山劇場などで四季の看板女優として活躍。実はここまでは四季の広報文書と「旭商同窓会報」によって紹介したのだが、どうい

環境からこの様な女優が生まれたのか、いま旭川をどう思うのかなどを聞こうと、劇団を通じインタビューを申し入れたところ。大阪公演に出かけている由。これが昭和六十三年の十二月、年が改つたら電話でくわしく語ってくれることになっていったが、平成元年になって風邪でダウン。いけませんね、大女優が公演中、倒れるとは一言申し上げておいた。いずれ、とっくり語っていたら、ことにしたが、舞台を志したのは、旭商高時代、劇団四季が身障者のための公演舞台を見て、感動したのが、この道に入るきっかけだったとある。平成ではなく大成を望もう。

国際化への提案

A 本日は司会者のいない座談会ということで、出席の皆さんにフリートークングをしていただきたいと思っております。まずDさんから。

D 旭川の市長さんも機会あるごとに国際化を提唱していますが、どういう国際化がいいのか、私なりに

考えたことを申し上げます。旭川の生んだ彫刻家の中原悌二郎さんを記念して中原賞を出しているが、これを受賞二人とし、このうち一人は外国人にして賞の国際化と、より高くグレード・アップをはかることで、ついでこの受賞者に来ていただいて「冬まつり」の雪の彫刻をデザインしてもらおう。

次に旭川というタウン自体の国際化ですね。いまの買物公園を例にと

(二頁へつづく)



虹の花満開のジャーマンアイリスまつり(記事は6頁)

「これがある」というものほしいね

☐ 考えていること。各商店ばらばらでなく一つの商業群団としてとらえていく。個々ばらばらに商戦を展開してもいゆる内地から進出してくるスーパーとかデパートに対抗出来ない。そこでここに「ギイ・ショップ」のようなものを考える。しかも国際化時代なので、商品も国際化してアメリカ、ヨーロッパ、中国などの国際商品を共同仕入れて安く入れて並べる。川崎市の場合、韓国の商品を安く売店を導入して成功したと聞いている。

旭川ではこうした商業群団の国際仕入れにノウハウをもっている商業資本の協力をえてやる、とまあ考えてみたわけです。

E 旭川ないし北海道のPRに關係してくるのですが、東京で北海道名産展がよく開かれるので、私も時間があれば、なつかしくもあるのて買っていくのですが、扱っている売り子がびつくりする位商品知識がない。パートか何かでしょうが、北海道への愛情はもちろん関心もないみたいなのですね。これでは切角来たお客も逃げてしまう。ジャガイモ一つでも、どれがメイクインなのか男爵なのか判らないのががっかりしますね。

A Gさん、長い間、東京で生活してわが故郷、旭川をどう見ますか。

本日のテーマは「わがふるさと旭川発展のため、もの申す」であります。旭川の知名度を高めるための広報、活性化のため基礎的文化の見直し、流出人材の活用など多くの課題を抱えていると思います。東京の旭川人のみた故郷なども縦横に語っていただきたいです。

(田村昌士広報委員長の挨拶から)

G 私の場合、十九歳までしか旭川にいないのでよくわからないのですが、いろいろな人に旭川の印象、イメージを伺ってみると「暗い」つていいですね。寒む寒むとした印象です。私の住むところで北海道の名産展が開催され、ミス旭川も顔をみせたのですが、売り場が隅っこの方でディスプレイも貧弱である。これはPRどころか、かえってマイナスになるのではないかと思います。やはり「暗い」物産展でした。

B 予算その他の点でいい場所がとれなかったのでしょうか。東京に地方の常設物産即売所があったり、特産の花や食べ物などをただで街頭で配ったり、大東京に盛んにPRしたり、アピールしていますね。PRとはもともとカネのかかるもの、さつきから皆さんのお話を伺っていると、ギリ貧、暗いという印象は何としても旭川からぬぐい取る必要があると思います。

A 国際化の話が出ましたが、旭川は米国のブルーミントン市と昭和三十七年十月に姉妹都市の提携をしました。随分遠いところと提携したものだと思えます。太平洋沿岸のものと近い都市と縁結びが出来なかったのかと思えますが……。

(ブルーミントン市側からの呼びかけに応じたもので、それも二年前調べて応じたわけです。気候、風土

などを比べてみてもふさわしい姉妹都市で、わが国の姉妹都市の中でもっとも成果をあげている)

A それ大分違うね。札幌と提携のオレゴン州ポートランドの場合、彼の地の日系一、二世らが両市の交流に積極的だし、神戸はワシントン州シアトルに神戸事務所を開設し、同州スポーケンと兵庫県西宮市に文化協定を結んでいる。名古屋はロサンゼルスに「二世週祭」というお祭りにミス・ナゴヤを押し立てて何百人もの視察団を送りこんでいる。旭川は中都市なので大都市なみにはいれないが、交流はもっと市民レベルでないと効果があがらない。

I 東京旭川会の副会長をしていた谷武雄さんがおっしゃっていたのですが、旭川を国際化するのはいいが、さし当って外国からのお客を迎えるホテルが不足していると指摘されています。もちろん、足りないのはホテルだけではないのでしようが……。それに旭川の人はお金持ちなのではないのでしようか。東京にいて見ていると、悠々としていてあわてない(笑)。生活に余裕があるので、かえって何かを積極的にやらないのではないのでしょうか。全体の傾向として、ある程度やれば、もう仕事もPRもいいでないかと言っていいもやらない(笑)。だからPRだってそうやりません。

オミヤゲのない街

A 何れにしても旭川の人には意外にもきわめてシッカリしているという話になるのだと思えます。国際化もむろん重要なのですが、やはり「国内化」の方がまず重要なのでして、国内の地位がしっかりしないと、国際的にも交流は出来ないわけです。この点いかがですか。細かいことでもけっこうですが、Fさん。

F この間、旭川へ行って東京へ何かオミヤゲを買おうと思ってみましたが、どうも適当なものがないんですね。ハツカツプという特産の野イチゴですか、それでつくったジャムがあったので買おうと思ったら普通の茶のみ茶わん位の小さなビン詰めで千二百円もする。

(あれは手で摘んでジャムにするまで全て手作りなのでどうしても高くつくらしい)

F かどうかわかりませんが、何も千二百円も出して買ってきませんね。私は仕方なくいくつかが買って来ましたけれど、ジャムはジャムです。要するにお菓子にしろ適当な値段でローカル色のある旭川ミヤゲはないというのですね。どうも、旭川だけでなく北海道全体がヤラズブツタクリという批判が高いね。旭川でないが、先日函館の朝市をのぞいたら例の毛ガニを売っていたが、高い。東京の魚屋で買うのより高い。北海道は物皆高いというのが本土の人たちの見方ですね。

(旭豆はどうでしょう)

A あれはね、京都の五色豆のイミテーションでしょうな。やはり旭川という土地が独創的に考えた菓子なり物産でないか全国的に売り出せないオミヤゲイミテーションはどこまでも猿真似で本ものの域に到達しません。

J 旭川の「き花」とかいいうお菓子が第二十六回モンテセレクションでシルバー賞をとってきましたね。

A それ洋菓子でしょう。問題は和菓子にある。洋菓子の場合、アーモンドでもアンコでもチーズでも材料は何でも使える。けれど、日本のお茶にあう和菓子は歴史の重味があるでしょう。北海道にそれが無い。

G さっき話が出ましたが、東京の北海道物産展に出ているものは高い。あれで売れるのかと思った。それに全国各地の物産と比べて特色がない。旭川は盛んにラーメンを宣伝しているけれど、どうなのだろう。

A ラーメンも結構だけれど、この食品は鹿児島でも福島でもどこでもうちのラーメンは日本一”といっています(笑)。これでは勝負は出来ないと思う。北海道のヒット食品は森の「イカめし」でしょうね。

B そういわれると旭川名物はまじないね。木工具もいいものもあるが、高値で簡単なオミヤゲにならない。

A Kさん、旭川発展にどういう考え方がありますか。

K 旭川が活性化するには基礎体力をつけることと思えます。観光客を誘致するにしても、工場に来てもらうにしても、あるいは学園都市にするにしても、基礎体力が必要でこの吸引力がないと発展の基盤に欠けるのではないのでしょうか。

J 細かい話ですが、この間、層雲峡へいった観光客ですが、旭川からバスに乗せられて、市内観光などすつ飛ばして層雲峡へ行ってしまふ。これ何んとかなりませんか。市なり商工会議所なりが働らきかけて少くとも何か所かをまわって、旭川ってこんなところだ位を見せていただきたい。

- 〈出席者〉(順不同・敬称略)
- 伊藤 一男 堀川 和延
 - 田村 昌士 大久保藤三郎
 - 竹原 茂雄 武田 陽子
 - 原 公朗 花輪 元治
 - 伊藤 英子 広瀬 芳一
 - 橋本 裕子 桑本 平八
- (オブザーバー)東京旭川事務所長・須貝華彦、本文中カッコ内はその発言



彫刻の配置に考慮を

J 旭川にこう何かおきおこる活力に欠ける。過疎都市化しているのであるまいか。それを痛感します。

C 例の平和通りの買物公園ね。私は仕事からよく旭川へいきますがこのメイン・ストリートもいいところ駅前から四条通りまででしょうね。(買物公園は開設時に二階部分を通路にしようという構想だったが、地元の商店街が戦前の古い一世が主であったせいか、新しい構想についてこなかった。現在二世から三世時代に入ったので商店の飾りつけなども随分今目的になった)

B ジリヒン旭川といったら地元から叱られるかも知れないが、発展のための材料が乏しい。

K かつて上川二百万石といつて、それこそ「黄金の花」が咲く土地で商都であったのだが、昔日の面影がありません。

A 旭川の旧市街がさびれて、過疎化現象からドーナツツ状になっている。都市の再開発を抜本的に考えないと、ジリヒンどころかペンペン草が生えるのではないかと心配します。

H 不動産業界もよろしくないらしい。空きマンションが目立ち、東京のような権利金なしでいいから入

って欲しいという声も聞きました。底冷えのする印象です。

J といってもあの寒い土地に帰って老後を送ろうという人はいないでしょうね。

B NHKテレビ、各民放の天気予報で旭川をとりあげていますね。むろん、日本でもっとも寒い。ああ毎日、寒い寒いといわれるとマイナスのPRにならないかと、ちょっと心配になります。

C 発展のための町づくりなのですが、あの買物公園、昭和四十七年六月一日に、全国にさきがけ歩行者天国としてスタートを切った。あれから二十年近くたっていますが、彫刻などを車道に飾ったので車の通行が出来ませんね。時々眺めてみてそろそろ発想を転換して模様替えをしたらどうだろうと考えるのです。いろいろな計画はあるでしょうが、イスのチューリッヒの町を歩いてみて、楽しく散歩が出来、うらやましいと思つた。

D 市当局そのものは新しい町づくりはかなり意欲的だと思つたが、本来、こうした改革はいけないのでもっと町の商店そのものが意欲的になって欲しいと思う。

旭川は富良野のそば

A さつきPR不足の話が出ましたが、全般的にいつてどうなんでしょうね。

B 近ごろでは富良野の方が有名になって「旭川は富良野のそばにある」などという(笑)シナリオ作家の倉本聡さんのPRとスキー場で富良野はクローズアップされましたね。しかし、開基百年を迎える旭川はこれではまことに情けない。

A 作家では三浦綾子さんがいるが、全国的PRとなると、倉本さんに及ばないな。

I 旭川の人はずっとPRは下手なんでしょうか。

A それもあろうが、やはり軸になる伝統文化の差だと思つた。旭川開基百年は来年ですか。

L 二年後の一九九〇年ですよ。

I 百年前はこういう年だったのですか。

G すると旭川の市制施行はずいぶん遅いね。

K 市制は一九二二年、大正十一年です。その前に一九〇二年、明治三十五年に町制施行、一九一四年、大正三年に区制が施行されています。

B 学校関係はどうなっていますか。

K これが意外と早い。忠別尋常小学校、のちの中央小学校が早くも明治二十六年にオープンになっています。上川中学校、のちの北海道庁立旭川中学、いまの東高が明治三十五年の開校、翌年に上川高等女学校のちの庁立高女、いまの西高がオープンして庁立旭川商業学校が大正十一年、庁立永山農業学校と旭川師範学校、いまの北海道学芸大学がそれぞれ開校になりました。

B 急速に教育システムを充実させたわけだね。

K 未開拓の上川平野にたくましいパイオニア・スピリットで建設を進めたことになる。

H どこかでそのバイタリテイなり開拓のスピリットなりのスピードがトーン・ダウンしたのだろうか。

旭川を独立県に昇格

A Lさん、北海道の二分制案を先日、語っていましたが、改めて語っていただきましょうか。

L さつきおっしゃつた「置き去り旭川」や「旭川無視」をなくするにはどうしたらいいのか。百万都市札幌がでんと構えていると、旭川も小樽もかすんでしまう。それなら北海道を北と南に分けて、北海道に新しく県を置いて旭川を県都にし

てしまふんです。(笑) いいですか、そうするとやせても枯れても独立した県ですから「旭川県」を無視出来なくなる。

B そうか、人口三十六万あれば県都として堂々としているね。これは名案だ。

A そうでしょう。県都なんだから、国民体育大会だって開催出来る。冬季オリンピックの候補地調査で長野市へいったところ市庁舎が堂々としていて北海道庁の建物より大きい。長野県の県庁所在地の市ですが、やはり市そのものに力があるのだからやましくなつた。わが北海道を見ると全てが札幌に集中している。旭川にあった旧国鉄の鉄道工場も札幌へ移転してしまつた。北海道における地方都市は正に置き去りですね。だから旭川に県庁をおくと、行政から産業から文化が新しく興るという次第であります。(大笑) 道庁があるのに札幌は見るところがいっぱいある。オリンピックの大倉シャイツ、月寒牧場、北海道大学の構内時計台、夜のススキノなど観光資源がそろつていて、旭川は到底太刀打ちが出来ない。大学を誘致するにしても受け皿があるのか、工場をもつてきても製品をどう搬出するのかなどを考えること、やはりジリ貧旭川となりやしないかと心配なのです。

A 大阪の財界人は東北をクマツの国といつて問題になりましたが、それなら北海道は何か、ソバきのクマの国なのか。要するに本土の人たちの目から見ると、旭川はその概念でしかみていないのですね。

どうもありがとうございました。(文責・伊藤一男)

文化なんて身近なところにあるんです

第6回

ふるさと訪問 旅行



レストハウスでの昼食懇親会

ことしも行こうね!

郷土訪問の旅は第一回、昭和五十七年でしたが、好評で多くの会員が引き続き毎年実施して欲しいとの要望が強く昭和六十三年も第六回を実施しました。

今回は▼旅行期間 8月24日・25日頃 ▲小学三年から中学二年の子供さんを対象とした夏休み旅行も併せて行う ▼決定し次第、4月頃、会員の皆さまにお知らせします。

共通の想いを乗せて

東京旭川会の第六回郷土訪問の旅を昭和六十三年度も実施することになったのは知っていましたが、まさか私とその旅行の責任者になるという事は、全く寝耳に水でした。東京旭川会の幹事として、毎回幹事会には出席しておりましたが、たま



旭川大雪アリーナに勢ぞろい

北国の六月はレンゲツツジと若葉の美しい季節です。前夜来の雨も明け方には音もなくさわやかな風に変ってしまいました。例年のことながら桑本事務局長と花輪常任幹事の見送りで二泊三日の旅に出ました。

六月五日八時、旭川駅前集合、心配された天候も皆さんの顔と同じ晴れやかに予定時刻八時三十分には二十八人全員集合して出発しました。懐かしい神居古潭をすぎ岩見沢インターから道央自動車道を走り札幌インターへ。三時間程走り続け小樽の新しい名所「北一ガラス」へ着きました。

明治生れの石造り倉庫を再利用し世界各国のランプと硝子製品を集め展示し、オリジナル製品も展示即売されていきました。趣きある建物や倉庫が目につく通りを過ぎ坂道の多い小樽の街で昼食をいただき目的地へ。ニッカウイスキーの余市を過ぎソールン節発祥の地碑、ローソク岩と海岸線ギリギリの道を穏やかな日本海を右手に丸山岬、黄金岬と入り組んだ岬が美しい景勝池を新米のガイド嬢がガイドブックを読みながら岩の名称と説明が耳ざわりな点もありましたが、素晴らしい海岸でした。

積丹岬で休憩。バスを降り島武意(しまむい)トンネルをくぐる。突然、海が開けスケールの大きい荒削りな断崖絶壁が続く丘陵がそのまま海に落ち込み、浸食された奇岩が点在する海岸が真下に見え急な坂道を砂浜迄おりると雄大な屏風岩が左手に屹立、ふり仰ぐと緑の斜面にオレンジ色のエゾ萱草が咲きはじめ初夏の姿を見せてくれました。

青い空、紺碧の海をそり立つ岩と緑の中のオレンジが美しい丘陵感激の一瞬。強行軍のためゆっくり堪能する間もなくヤブ鶯の声にせかされて車は来た道を少し引返し半島を横断して竜神岬へと抜ける。日本海の荒波が削った岩の彫刻が点在するカプトラインを経て岩内へ。そして今夜の宿雷電ホテルのある雷電海岸へ到着。海岸には義経伝説の岩が多くホテルの左手には弁慶の刃掛岩、弁慶の刃が大きい置き置き事が出来ない為岩をひねくって刃を掛けたと伝えられるが印象的。一日の疲れをとるには余りにも慌ただしい入浴だった。海を借景にひなびた温泉につかり心身共に癒され海の幸一杯の夕食に江差追分が聞えて来る様な心地良い夜でした。

六月六日穏かな朝の海。朝食をすませ今日もバスの旅が始まる。海と

わたしたちの センチメンタル ジャーニー

別れ蝦夷富士といわれる羊蹄山を正面に見ながら白樺並木を蘭越、ニセコ、真狩村を通り洞爺湖へと向う。昨日に変わり今日はひたすら畑の中を走る。昼食は石狩鍋に舌鼓をうち天地創造期を思わせる昭和祈山へ着く。昭和十八年から一年九ヶ月の間平坦な畑や林が噴火を繰り返して標高四〇六メートルの山を形成、今なお赤茶けた山肌に噴煙をあげている。型通りの記念写真を撮り有珠山に登る人世界のガラス館に入る人と分れば素適なローズ色のガス灯(イタリイ製)とテラスの花壇の美事に惹かれガラス館へと向う。北一ガラスとは違い近代感覚の明るい建物の中へ入り、頭の上に吊り下げられた桁違

いに高価なシャンデリア。首が痛くなる程みとれていました。吹きガラスの英国の職人の手品の様な作品を飽きずに眺めてきました。透明な感性に息づく世界のガラス館でした。オロフレ峠に向う。相変らず霧が深く視界がきかず揚げイモのおいしさが思い出されます。白樺の原生樹林を走り登別地獄谷を見て今夜の宿泊地第一滝本館へ入る。さすが東洋一の大浴場を誇る日本の湯どころ、早速お湯に浸り一日の疲れをいやす。

第一滝本館前で記念写真を撮りここで三人の方が別行動になり、二十五人と白老ポロトコタンへ向う。僅か三人の席が空いただけで何んとも淋しいものです。傘を必要とする程ではないが何となくの時雨の日。アイヌ民族の生活文化を紹介しているアイヌ民俗資料館を訪れ民芸品をお土産に買込む。肌寒さを感じ暖かい牛乳で暖をとる。ワンカップ百円也。昼食は支笏湖北海ホテル鍋料理で体がホット暖る。二時半から四時半の二時間が自由行動、札幌から帰京される方がほとんどでそれぞれお土産品を求めて街に出ます。公園では懐しいトウキビの匂い。相変らず人が集りライラック祭りも終わった後でニセアカシヤ、ツツジの花が明るく目につきました。四時半大通公園で帰京組と別れ皆さんの見送る中を三名を乗せ終着地旭川へ向います。荷の軽くなったバスの中でトウキビを食べながら夕暮る北国の空を眺め飛ぶ様に、但し安全運転。無事旭川駅前へ帰る、七時を少し廻っていました。解散時三人と淋しいラスト

力です。天候に恵まれ皆さんのご協力です。楽しい旅でした。
(武田陽子)

たま所用で幹事会を欠席した時に旅行の責任者に選任されてしまいました。団体旅行については全く素人の私が、東京旭川会の重大な年行事の一つである郷土訪問の旅の責任者となっても、どうしてよいのやら見当がつかせませんでした。事務局長の桑本さんや副委員長の花輪さんのほか旅行委員会の幹事の皆さんの積極的な協力で、その大任も引受けることになりました。

そこで先ず私が最初にしたことは、航空会社へ行って出発当日の座席を確保することと飛行機の運賃の交渉でした。これが思ったより大変でした。桑本さん、花輪さんと何回か会社へ足を運び、頭を下げてようやくこちらの希望条件を受け入れてもらうことができました。

次に、会員の皆様への案内状の発送ですが、これは旅行委員会の皆さんと有志のご協力でスムーズにいきました。その後、会員の皆様から出欠のご返事をいただいていたので、出席の皆様の帰京の日時と旭川または札幌からの出発場所の確認のほか、ホテルの宿泊関係のチェックが大変でした。

私達が当初予定していた参加人数を大幅に上まわる申込みがあって、私達は大喜びなのですが、百人の皆様が帰路に間違いなく希望した便に乗っていただくようにするほか旭川のホテルでの宿泊ができなかつたら困りますので、それこそ何回も出席者のリストと申込みの内容も照らしあわせて万全を期しました。

その間、旭川市の関係者との連絡ホテルの手配、積丹方面の旅行の準備、航空会社へ行ってチケットの受取りなどをすませ、ようやく昭和六十三年六月三日に出発する段取りができました。

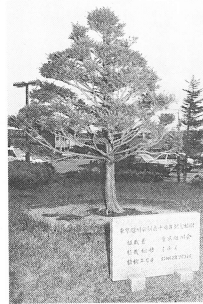
出発当日、私達旅行委員会一同は、出発時間の二時間半前に空港のロビーで皆様の来られるのを待ってチケットをお渡ししたのですが、集合時刻を午前十一時とお願ひしていたのに、飛行機の出発時間である午後零時十分の二十分前(受付締切時刻)になっても数人の方が来られず、桑本さんと私がロビーに残り、幹事の方には飛行機に乗ってもらい遅れた方をお待ちしました。一時は、次の便で行かなければならないかなと覚悟をいたしました。その後、待っていた方も来られ、なんとか旭川へ向って旅立ちました。

私達を乗せた日本エア・システムのA三〇〇は、予定より三十分遅れて旭川空港へ無事着陸しました。旭川ではそれまで降っていた雨が、飛行機が着陸する直前に止んだのと、会員の皆様の普段の心がけがよいのが、はからずも実証された次第です。

旭川到着後、私達はバス二台に分乗して大雪アリーナへ向いました。ここで恒例の旭川市の歓迎式があり記念写真をとってから旭川市と近郊市町村の産物を展示してある地場産業振興センターを見学しました。皆様がそれぞれお好きなものを買っていらしたようですが、あまり時間がなかったのが少々心残りでした。

その後、高砂台レストハウスでビールやワインを飲んで郷土の味に舌鼓をうちました。私は、年に数回旭川へ行って、おりますが、この旅行に参加することによって、毎年一回の東京旭川会の総会では顔を合わせる事がなかった会員の皆様と旅行中に親しく話をさせていたでいて、旭川に関する共通の話題から過ぎ去った日のことが

いろいろと思ひ出されました。その上、旭川市の皆様のあたたかいおもてなしを受けることにより、旭川で生まれ育った喜びを強く感じました。昭和六十三年度の郷土訪問の旅は、会員の皆様の御協力により無事終了したことについて、心から御礼を申し上げますとともに、今後は、もっと充実した楽しい旅行になるように心がけていくつもりですので、会員の皆様の多数の御出席を得られることをお願ひする次第です。



大きく育てて、東京旭川会創立10周年記念植樹 (竹原茂雄)

いい日旅立ち

成人式まで北海道に育ったが、時代も時代で観光など思いもよらなかつた。こんどの第六回郷土訪問の旅で、小樽、積丹は初めてであった。景色といい料理といい十二分に満足出来た。次の日、蝦夷富士の羊蹄山を眺めながら洞爺湖に寄り登別へ。登別の第一滝本はさすが東洋一といわれているだけに、彫刻のお風呂につかりながら、昔の千人風呂を連想した。

バスの中では、お客の方が北海道の生き字引のような方が多く、バスガイド以上の博学にはおどろいた。札幌市内では柴山願間など、ジャンプをとんだ若い頃のお話をつい最近のように語られた。帰宅してからプロ級カメラマンの松永さんからめいめに写真を送られて、改めて感謝した。ありがとうございました。

(沢登博美)

ゴルフ・コンペも

郷土訪問旅行のイベントの一つ、地元旭川市と東京旭川会の交流ゴルフ大会は六月四日朝八時半からの大雪山カントリー・クラブで開催。あ

いにくの小雨でしたが、初の交流ゴルフとあって双方大はりきり。優勝は東京旭川会の鷹野美弥雄さんで旭川市長杯を、準優勝は旭川の木村晃久さんで東京旭川会会長賞を獲得した。成績は別表の通り。

東京旭川会交歓ゴルフ大会成績表

PLAYER	OUT	IN	GROSS	HDCP	NET	RANK	備考
矢野 正康	51	52	103	31.5	71.5		
本間 敏弘	60	55	115	40.0	75.0		
広瀬 芳一	56	56	112	37.5	74.5		
竹原 茂雄	58	54	112	37.5	74.5		
木幡 功	41	46	87	15.0	72.0		
佐々木 憲一	55	54	109	39.0	70.0		
松永 啓二	51	48	99	30.0	69.0	6位	
指田 幸三	46	49	95	25.0	69.5	9位	
指田 小枝子	48	48	96	27.0	69.0	5位	
菅ヶ谷 金次	48	49	97	31.5	65.5	1位	会頭賞
平井 良雄	60	61	121	40.0	81.0	BB	
宮原 邦一	59	60	119	40.0	79.0		
高橋 行徳	55	62	117	40.0	77.0		
岡元 昭男	59	50	109	37.5	71.5		
鷹野 美弥雄	39	47	86	21.0	65.0	優勝	市長賞
井岡 利夫	47	49	96	28.5	67.5	2位	観光協会会長賞
原田 知芳	45	49	94	25.5	68.5	4位	
廻谷 良雄	60	62	122	40.0	82.0		猛打賞
鈴木 祥雄	44	43	87	16.5	70.5		
小沼 重三郎	56	63	119	40.0	79.0		
中島 昇	53	57	110	39.0	71.0		
市村 資郎	42	40	82	10.5	71.5		
藤井 諄一	54	62	116	40.0	76.0		大波小波
水本 慶一	40	43	83	12.0	71.0		NP, DC
木村 幸雄	60	53	113	40.0	73.0		
田中 育三	57	51	108	34.5	73.5		
永井 武男	50	56	106	30.0	76.0		
尾崎 行智	39	35	74	4.5	69.5	7位	NP, DC, BG
中屋 健	39	42	81	6.0	75.0		
上牧 道雄	51	50	101	31.5	69.5	10位	
柳谷 宏	42	44	86	16.5	69.5	8位	
松浦 常雄	56	59	115	40.0	75.0		
松山 正雄	51	54	105	37.5	67.5	3位	
木村 晃久	52	49	101	36.0	65.0	準優勝	東京旭川会会長賞
高山 五郎	46	48	94	21.0	73.0		

第六回郷土訪問の旅参加者

(敬称略・順不同)

- 矢野正康、堀川和延、広瀬芳一、花輪元治、原公朗、須貝藤彦、武田陽子、松永 勇、松永泰子、熊木恵子、本間敏弘、本間富美子、柴田静子、三浦久子、奥野 治、吉田浩二、本木七郎、広瀬ヨシ子、山田勝久、平沼恒子、関晃、鴨下貫郎、浜名武治、佐々木憲一、松永啓二、廻谷良男、平井良雄、指田幸三、指田小枝子、鷹野美弥雄、鷹野妙子、高橋行徳、菅ヶ谷金次、菅ヶ谷美千枝、原田知芳、鈴木祥雄、井岡利夫、中島 昇、増宮和枝、小沼重三郎、市村資朗、宮原邦一、竹原茂雄、堀口 徹、柯 美瑛、斉藤寿子、斉藤正明、斉藤登和子、大城栄子、福原博子、福居秀一、福居千代、山下華子、山下喜代次、三浦英治、久保田明、西村由紀子、西村英子、坂東幸子、坂東勝利、船越和子、田中文栄、竹田 薫、竹田サチ子、榊原 潔、榊原真奈美、中川辰雄、中川美智子、布目カヨ、布目チカ子、柴山敏夫、柴山泰子、入江正剛、小林美代子、福居浩一、長勢久子、橋本裕子、赤川ろく子、沢登博美、土肥ちい子、鴻上修一、岡元昭男、森由美子、福土宏子、木幡 功、高田優子、種田小三郎、高村泰広、金津良三、南泰子、亀井欽一、桑本平八

(以上93名)



全国高校スキー大会入場行進

旭川市開基二〇〇年のシンボルマーク



1990
旭川市開基100年

旭川市では一九九〇年(平成二年)に開基百年を迎えるので、かねて広く一般からシンボルマークを募集していたところ、米国のロサンゼルスからの応募をふくめ千二百二十九点の作品が寄せられ、最優秀賞に旭川市の小野康治さんの作品が選ばれた。三角形は、人・自然・時の調和ある未来への進歩を見続けてきた北海道

道の大地と大雪山を表現。中心の輝きは上川盆地と市民のエネルギーを表わし、カーブのラインは石狩川などの河川。上部の星は北斗星。また、同時に募集しました「イメージソング」は全国から五百三十八点の応募があり、歌詞には、同市内の菅原志郎(38歳)さんの「若い街から」が選ばれました。これに、「雪が降る町を」や「小さい秋みつけた」などで有名な中田喜直さんが曲をつけ、出来あがりしました。歌詞の一部を。

旭川が川であるように
人が人であるように
いつ いつまでも かわらない
若い街から
いきがい求め 旅立とう

スキーとアーチェリーの 高校生の全国大会

一九八九年の「はまなす国体」を翌年に控えた旭川で二つの大きな高校スポーツ大会が開かれました。一つは、二月八日から十二日までの五日間、旭川で初めて開催された全国高校総体スキー大会は全国から約二千人の若者を迎え、冬まつり会場のスノーステージで開会式が盛大に行われました。(写真参照)

競技で、地元旭川勢が大活躍。クロスカントリー男子15キロでは、旭大高二年の松浦元選手が3位に入賞するなど健闘しました。

また、七月二十六日から二十八日は、全国高校アーチェリー選手権大会が行われ、3百人余りが富沢特設アーチェリー競技場を舞台に熱戦を繰り広げました。

はなます国体では二月にスキー競技が、九月にはアーチェリーとレスリング競技が旭川で開催されます。



全国高校アーチェリー大会



ニュース提供：
旭川市東京事務所

「流雪溝」モデル実験

冬、市内の道路の両側に高く積み残された雪は、交通障害の大きな原因となっています。そこで、旭川市では、「旭川市融雪雪研究会」を組織して、昭和六十二年の十二月から旭川国策バルブ工場から出される温排水を利用した「流雪溝」のモデル実験が始まりました。国道39号線に面した大雪通二丁目から四丁目の約五百五十メートルには、十八カ所の投雪口を設置、積み残った雪を容易に処理できるようにしました。

さらに市内の商店街と住宅地の幹線道路二カ所に既設雨水排水設備に投雪口を新設し、流雪溝として利用できるよう、十二月中の完成をめざして工事が進められました。

ジャーマンアイリスまつり

昨年六月十八、十九日の二日間、金星橋上流右岸広場で「ジャーマンアイリスまつり」が開かれました。この祭りは「旭川市を緑にする会」が河川の緑化PRと虹の花と呼ばれているジャーマンアイリスを普及しようと、初めて開催されたものです。会場の河川広場一・二ヘクタールには市民が二年間をかけて植えた一万二千株のジャーマンアイリスが色とりどりの美しい花を咲かせていました。

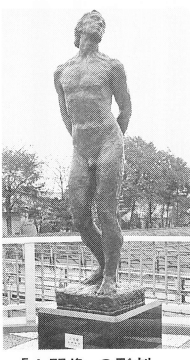
また、将来は秋月橋との間二・七キロメートルをジャーマンアイリスで埋めつくし、花の名所にしようとする計画もあり、九月下旬には秋月橋下流広場に五千六百株を植栽しました。

今後、大雪山連峰をバックに石狩川とカラフルなジャーマンアイリスの風景が、市民の憩い場となるのが楽しみです。

装いも新たに「緑橋」完成

昭和六十一年から拡幅、架け替え工事が進められていた緑橋が完成、十月二十八日に完成式が行われました。この橋はバルコニーが設置され、上流側には加藤顕清の彫刻「人間像」(写真参照)が設置されました。

旭川市内の彫刻橋は、昭和六十年完成の忠別橋に山内壯夫の「家族」、高橋清の「人No.13」、加藤昭男の「月に飛ぶ」、流政之の「かくれた恋」など。



「人間像」の彫刻

ときわ市民ホールオープン

市民の心のふれあいを深める場として、旧旭川西高跡地(五条通四丁目)に建設が建められていた「旭川市ときわ市民ホール」が十一月一日オープンしました。同センターは、婦人やお年寄り、ボランティア、勤労青少年らが、いろいろな会合やサークル活動に利用できる多目的施設です。

とくに体の不自由な方のためには各室の入口を横開きにしたり、車イスでも入れるシャワー室を用意するなど、様々な細かい配慮がされています。

総工事は約十一億五千万円。鉄筋コンクリート造り四階建ての内部には、研修室、調理実習室、多目的ホールなど二十以上の貸室のほか、無料の体の不自由な方のためのトレーニング室、囲碁、将棋を楽しむことのできる教養娯楽室、ビデオで福祉情報を得ることのできる視聴覚情報資料室などがあります。

昭和二年学校を出ると、全く予期もしていなかった旭川実科高女に勤務することになった。旭川実科高女といっても知らない人は多く、通称、創立者で校長である澤井兵次郎氏の苗字によって澤井女学校と呼ばれていた。

氏は旭川の草分けであり、かつ旭川女子教育の創始者である。旭川に女子教育の機関のないことを憂えて、率先して旭川裁縫専門学校を作られたのは実に明治三十年のことである。入学生は五人だったという。やがて高女が出来、女職（後の北都高女）が出来たので、澤井女学校は振わず、持っていた十六戸の宅地をこごとく学校につき

思い出の澤井兵次郎翁 小池栄寿

込んでしまったが、それでも差押えに七度もあわれた。こんな苦難にも屈せず、女子教育一筋に専念された。本職は獣医だったので、その仕事をしていたら何の苦勞もなく、財産も残したろうに、進んで困難な女子教育の道を選び進んだ人であった。

さて、私が実科高女に勤めるため、澤井校長に初めてお会いしたのは二十一の若輩で、校長はもう六十を越しておられたと思う。その校長が、初対面の私に「この学校は澤井の短いすね一本でやってるので、澤井を助けると思ってやって下さい」といわれたがふかふかと頭を下げられたのであった。若い私は真実感激してしまった。

就任して見ると生徒は百、四十人で、全く家庭的であり、まじかた。創立以来初めての若い教師であろう私は、情熱を傾けて教育に当たった。若気の至りで良く教育上のことで衝突もした。どんなに私が怒っても校長は、熱心のあまりとして私に悪意を抱かれなかった。

その年の秋、私は令息である主事夫妻と衝突してしまった。辞表を出そうかと考えたが、首になるなら仕方がないが、正しい自分が自らやめる要はないと、毎日平凡と勤務していた。すると或る夕方校長は黙って一通の封書を私の机において帰って行かれた。「来たな

と思ったが、平気を装って下校した。しかし路上で街灯の下、封を切つて見ると「貴下の俸給は（当時八十円）十一月から九十円、来年三月から百円にするから承知されたい」とあった。当時は公立学校でも五円昇給するのに三年も四年もかかったものだ。「金で釣る」と悪口をいう人もあったが、私は知己の恩に感激したのであった。

後年、令息の時代になって学校は驚異的に発展したかに見えたが若僧だった私も傘寿を越え、澤井兵次郎先生を追慕する念が日まじに強くなった。その一端を記して翁の恩顧を謝し、その徳をたたえる次第である。

詩 古里のみち

杉本秀樹

あの道は 師団通りといったみち
時計を買い、メガネを直し
教科書を求め、最中を買ったみち
胡桃の銃把に、白布を巻いて
友が南に 征った みち
あの道は 碁盤目の みち 条通り
丁目、仲通り 南端の みち
秋は荷馬車で 大根を売り
冬は馬糞に家族をのせた
赤いケットの 鈴の みち
あの道は 北斗形の 北の みち
星が降る様に、見える みち
二十六、二十七、二十八
一線六号 兵の みち
消灯ラッパの 染みた みち
あの道は 南から来た みち
屯田が来た みち 祖父が来た みち
石狩川の向うは 汽車の みち
戻れぬ流水に思いを込めて
一緒に走る 三筋 みち

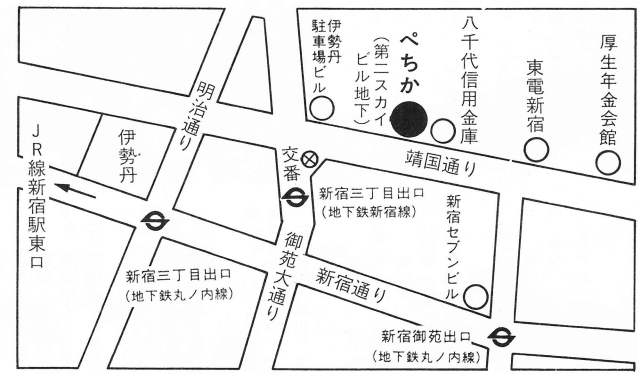
〔注〕胡桃の銃把（出征兵は小銃の木部に白布を巻いて出発した）
二十六、二十七、二十八（第七師団歩兵第二十六聯隊から同第二十八聯隊）

旭川の酒場「へちか」



花の新宿は五丁目「へちか」という、旭川の酒場のあつたところご存知か。マダムの中塚博（ヒロ）さんは旧立旭川高女（現西高）の出身。三十八年前、新宿駅東口のバラック、通称ウナギの寝床でオープン。いまは移り住むこと三軒目、ちあきなおみ流に「いろいろお世話になりました」ではなくますます繁昌。チーフの松岡正彰さんも旭工高の出身。いまだきカラオケも置いていない店も珍しい。「料金は？」と訊ねたら「お安い酒場です」とあるから、なおみの「紅トンボ」風らしい。

◇新宿区新宿五〇一〇一第一スカイビル地下◇営業時間 日曜、祭日休み、午後六時から十二時まで◇電話〇三三三四一七二三〇



編集後記

▽本紙の前号で会員各位のご激励をえた一九九八年の冬季オリンピックを旭川で——は八八年五月、JOCの投票の結果、次の通り旭川には二票しか入らず惨敗した。

- 長野市 三四票
- 盛岡市 九票
- 旭川市 二票
- 山形市 〇票

信州の壁厚し。政治力、経済力に加え、歴史と伝統、文化の差なのか。どうしたらいいのか、今号の座談会の中にいささかの回答があるはず。何はさておき知名度が第一。それを高めるのは容易ではない。

▽フロント頁の「人」に劇団四季の女優、野村玲子さんに登場願った。年末から三ヶ月の大坂公演。やむをえず電話でインタビューならぬテレタイプを考えたが、彼女のカゼでこれもストップ。何れ改めてインタビューを。

▽年末六日、故谷武雄副会長のオフィスを借用して編集会議を開く。今号は総会、懇親会が天皇さまご不例で出席予定者が次々と参加を取り消したため、にわかに中止となった。とくにご年輩の会員の方々の取り消しが目立った。このため座談会「ふるさと旭川にも申す」を急遽開催した。本紙に日頃カオを出さない幹事の方々にお願いしたが、もつと枠を広げて若手の一般会員中心のフォーラムも参考になるに違いない。

▽本紙の編集は昭和から平成にかかった。広報委員の一人が元宮内庁担当記者とあってテレビ東京に三日間、ゲストとして出ずっぱり出演。旭川出身にはさまざまな人がいるもの。(XYZ)

